

第4節 国民の取組

国民の一人ひとりが自らの仕事と生活の調和の在り方を考え、家庭や地域の中で積極的な役割を果たす。また、消費者として、求めようとするサービスの背後にある働き方に配慮する。

（「憲章」（「関係者が果たすべき役割」（国民）から）

1 先輩育休パパの言葉に見る一人ひとりの取組

ポイント



「パパの育児休業体験記」から読み取る先輩育休パパの取組や経験

- (1) 家庭の状態を職場の同僚が認識し、子育てする者をサポート
- (2) 周囲の理解と協力を得ながら育休を取得
- (3) 仕事を効率的にこなし、家庭での役割を果たす
- (4) 育休取得により、育児に対する考え方が変化
- (5) 励まされた会長やお客様からの一言

内閣府では、実際に育児休業を取得または取得中の男性を対象に、育休取得から復帰までの体験記を募り、平成20年12月に、84編の体験記から成る「パパの育児休業体験記」を公表しました。

以下では、国民一人ひとりの取組などが読み取れる体験記5編の抜粋を紹介します。

(1) 家庭の状態を職場の同僚が認識し、子育てする者をサポート

上司に尋ねると、「男性も育児休業を取得出来る制度があることは知っているが、職場に前例がなく取得できるかどうかは上に聞いてみる」との回答をもらった。数日後、取得可能との返事をもらい、妻が産休育休を合わせて三ヵ月取った後の九ヵ月間、私が育児休業に入ることが決まった。(略)

育児休業を取るにあたり、周囲の理解というのは重要だと思う。男性はもちろん女性ですら産休や育休を取得できない会社の話をよく聞くが、私の職場ではそのようなことを全くなく、「頑張ってますか?」「子育て大変じゃない?」等の声を掛けてもらい、理解のある環境を大変有り難く思っている。

4-04「育児休業を取ってみて」
大木滋さん(会社員)

(2) 周囲の理解と協力を得ながら育休を取得

上司や同僚には、妻の妊娠がわかった時点から、飲み会の席などで育児休業をとりたいと思う旨を伝えていました。最初は周りも「冗談かな」と思っていたかもしれませんが、正式に取得したい旨を伝えると、仕事の流れや順番など、仕事への影響が最小限になるように、検討をいただきました。上司や同僚には大変感謝しています。このように職場での協力が得られたことも育児休業取得を決断する大きな一因となりました。

2-01「私を変えた育児休業!ありがとう!」
大牟田直人さん(会社員)

(3) 仕事を効率的にこなし、家庭での役割を果たす

現在、職場に復帰し、仕事と家庭の両立にチャレンジしています。2人目の子供が生まれ、育児はさらに大変になりました。家事や育児など、家ではやらなければならないことがたくさんあるので、仕事を効率的にこなしてできるだけ早く帰るように気をつけています。

1-13「育児休業を取得して感じたこと」
田中知博さん(公務員)

(4) 育休取得により、育児に対する考え方が変化

育児休業を取得した日数はわずかでしたが、その間に学んだ事は数多く、子供を持つ女性の大変さ、育児自体が親の成長にも役立つ事など、育児に対する考え方が大きく変わったような気がします。

育児休業自体まだまだ認知されていない所がありますが、子供を育てる事の重要性、夫婦の協力、親になる事の自覚など、自分達を見つめ直す時間は必ず必要であり、それが育児休業という制度によって取得できれば良いと今は強く感じています。

1-01「育児休業体験記」
赤井博信さん(会社員)

(5) 励まされたお客様や会長からの一言

今回の申請に当たり自分が調剤薬局の店長を任されている立場であった事や、休業開始が定期の人事異動後となってしまったため、会社には迷惑をかけてしまうという思いは拭えませんでした。しかし会長から直々に声をかけていただき、その際いただいた言葉が「店長や薬剤師の交代要員は何とか出来る。けれど奥さんの交代要員は君しかいないのだから、その仕事をきちんと頑張りなさい！」でした。

その言葉に励まされ、本部の皆様はじめ店舗のスタッフにも快く送り出していただき、後任の店長とも引き継ぎを無事終えることが出来ました。店舗をご利用されている患者様にも「残念だけど、頑張ってください。」と励まされた事にも感謝をいたしております。その後も復職してからの時短勤務や自宅近くの店舗への異動も配慮していただき、引き続きサポートしやすい環境を作っていただきました。

1-04「育児は『育自』」
大岩泰治さん(会社員(調剤薬局店長))

以上のような国民一人ひとりの仕事と生活の調和の実現に向けた行動を、好事例として広く社会に示すことで、社会全体の機運の醸成や国民一人ひとりの意識改革につながるとともに、仕事と生活の調和の実現に向けた取組の輪が広がっていくことが期待できます。

なお、ここで紹介した体験記のほか、「パパの育児休業体験記」では、

- ・職場が体制を整えてくれたことで育児休業を取得できた、
- ・子育てを通じて家族との絆を深められた
- ・自分の育児休業取得が、職場の成長につながった

など、さまざまなエピソードが語られています。また、これから育休を取得しようとしている男性やその家族、職場などに向けたアドバイスなども含まれています。

詳細は...

http://www8.cao.go.jp/wlb/change_jpn/taikenki/h20/index.html

2 意識調査結果に見る個人の取組状況

ポイント



意識調査結果に見る、個人のワーク・ライフ・バランスのための努力の状況

ワーク・ライフ・バランスのために努力をしている人の割合は、約2割。

ワーク・ライフ・バランスのために努力している人のほうが、そうではない人に比べて、ワーク・ライフ・バランスについての自分の希望を実現できている割合がやや高い。

ワーク・ライフ・バランスのための努力として、「自分の趣味の時間をとる」(71.0%)が最も多く、次いで「効率よく仕事する」(67.0%)、「仕事の段取りを工夫する」(55.4%)。

内閣府が平成20年8月に実施した「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する意識調査」では、個人のワーク・ライフ・バランスに向けた取組について質問した。その結果は以下のとおり。

調査の概要

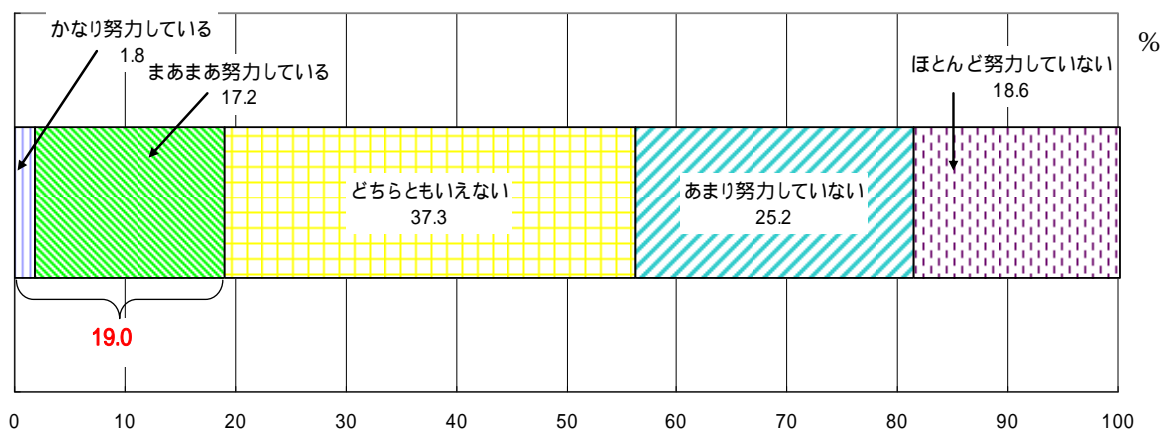
調査対象: 全国20歳以上60歳未満の男女2,500人(人口構成比で割付)

調査期間: 平成20年8月1日～3日

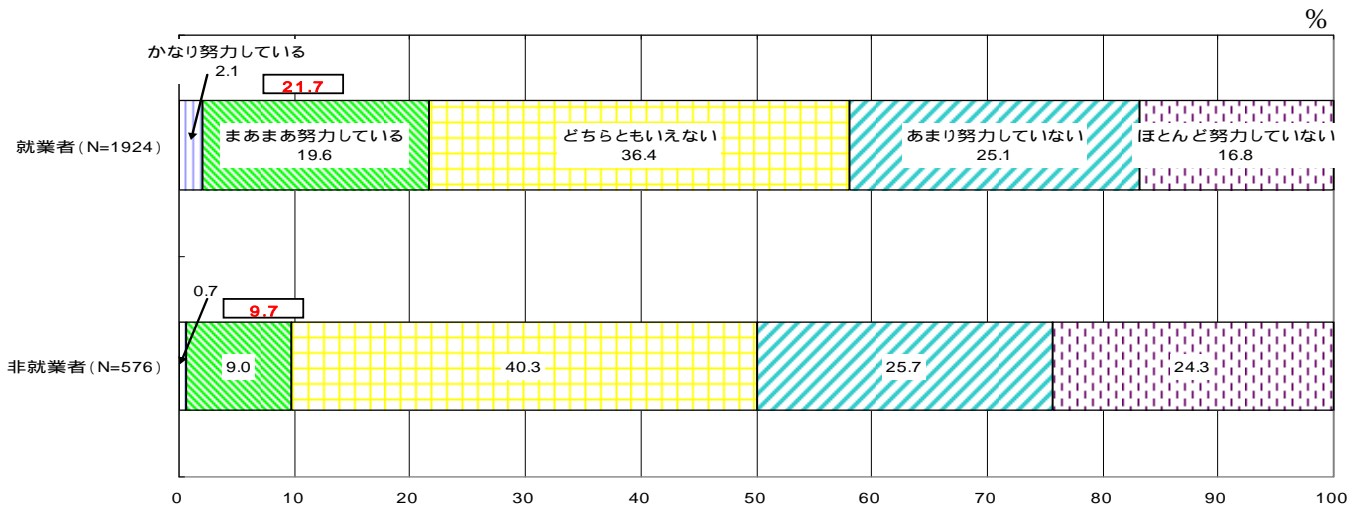
調査方法: 調査会社の登録モニターに対するインターネット調査

(図1) 日頃、ワーク・ライフ・バランスのために努力しているか

(N=2500)



(図2) 日頃、ワーク・ライフ・バランスのために努力しているか(就業状況別)



(表1) ワーク・ライフ・バランスのための努力と、希望と現実の一致()

N=2500

	努力している *1	どちらともいえない	努力していない *2
一致	18.5 %	17.0 %	12.0 %
不一致	81.5 %	83.0 %	88.0 %
計	100 %	100 %	100 %

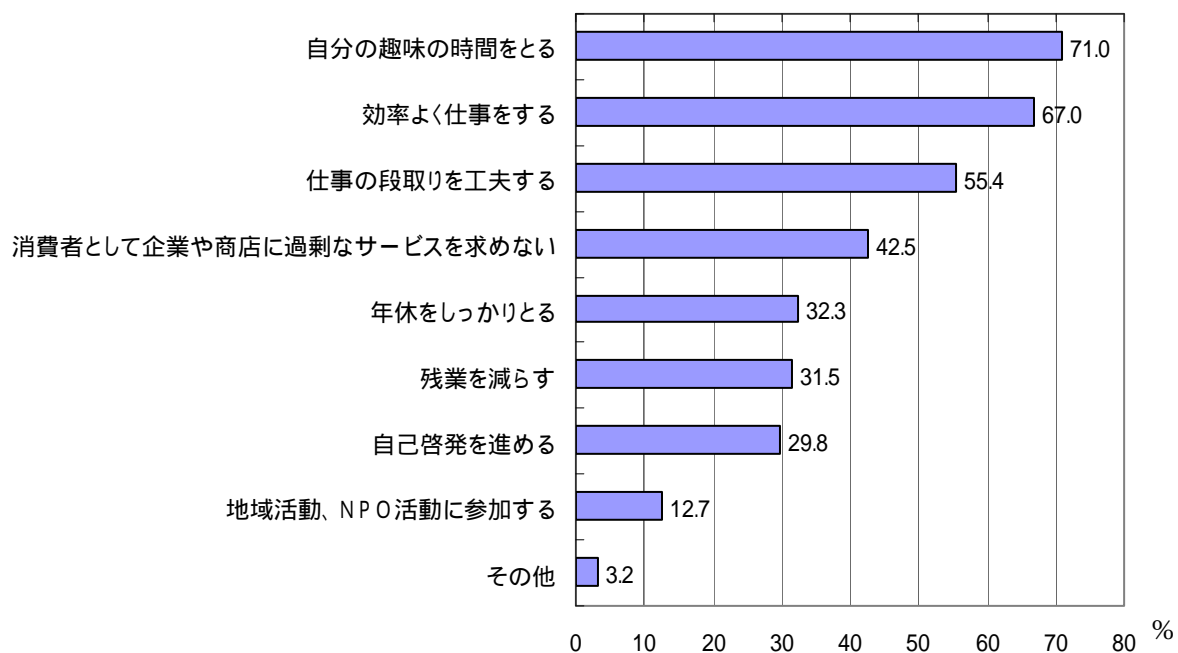
*1 「かなり努力している」と「まあまあ努力している」の計

*2 「あまり努力していない」と「ほとんど努力していない」の計

() 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、希望とする生活と現実の生活が一致しているか否か

(図2) 具体的にどのような努力をしたか(もしくは、しているか)(複数回答)(M.A.)

N=2500



ポイント



意識調査結果に見る、顧客ニーズと働き方の関係

22時以降に小売店を週1回以上利用する割合は、全体では26.7%で、高いのは、男性20代(47.2%)。

深夜(22時以降)の小売店の営業について、「なくなったら困る」が約4割。

「顧客ニーズに対応するために、長時間労働など働き方に悪影響が出ている」と感じる人が約6割。そのうち8割の人は「是正の必要がある」と考えている。

内閣府が平成20年8月に実施した「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する意識調査」では、顧客ニーズと働き方の関係について質問した。その結果は以下のとおり。

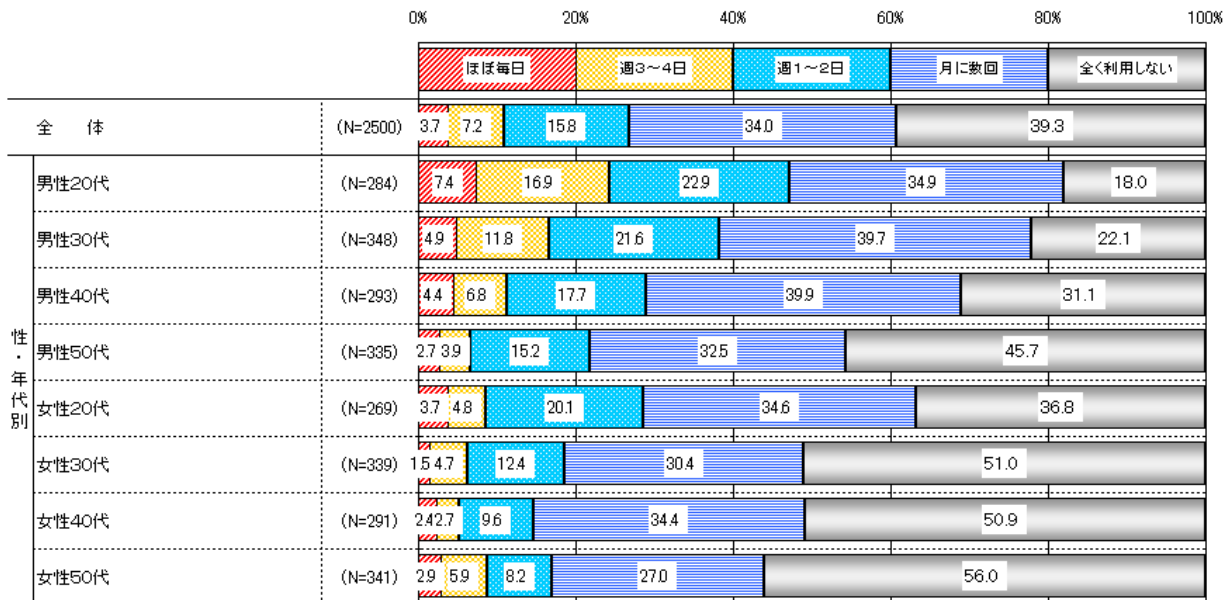
調査の概要

調査対象：全国20歳以上60歳未満の男女2,500人(人口構成比で割付)

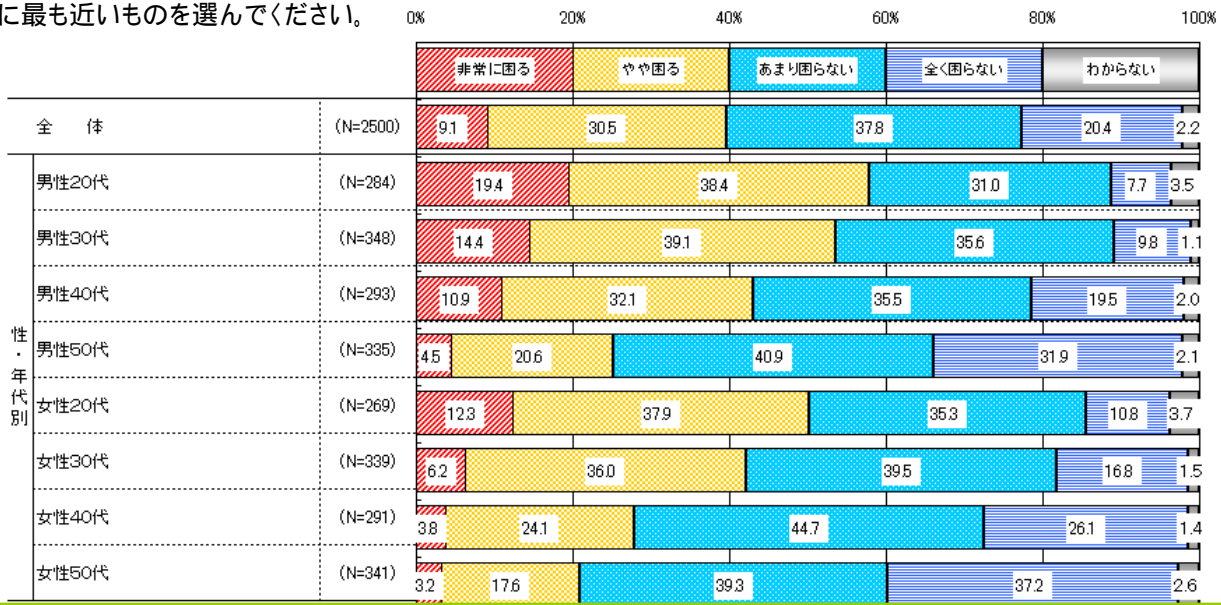
調査期間：平成21年3月6日～8日

調査方法：調査会社の登録モニターに対するインターネット調査

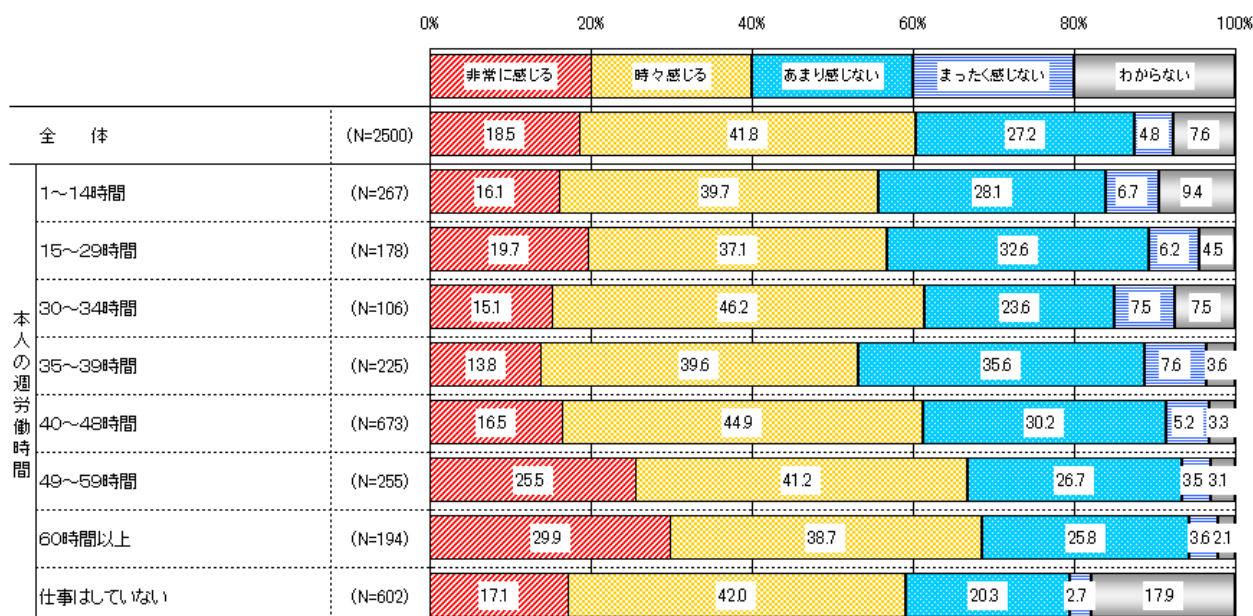
(図3) あなたは日常の生活において、22時以降に小売店(スーパー、コンビニ等)をどのくらい利用しますか。



(図4) あなたは、仮に22時以降に営業している小売店がなくなったら、どう思いますか。あなたの考え方に最も近いものを選んでください。



(図5) わが国では、年中無休の24時間営業やそれを支える物流サービスなど、便利で多様なサービスが提供されていますが、顧客ニーズに対応するために、長時間労働など、働き方に悪影響が出ているといった指摘もあります。あなたは働いていて、そのようなことを感じることがありますか。もしくは、働いていたら、そのようなことを感じると思いますか。



(図6) あなたの考え方に最も近いものを以下から1つ選んでください。(「顧客ニーズに対応するために、長時間労働など、働き方に悪影響が出ている」と感じる回答者ベース)

